



「海應コラム」

Vol.07

今だからこそ  
知ってほしい仏伝

世界中で争いが起こっています。人類の歴史は争いの歴史でもあります。釈迦族の王子として生誕されたお釈迦様の母国である釈迦国は、お釈迦様が在世中に他国に攻められ滅亡しました。

**釈** 迦国は血統正しい国でしたが小さな国で大国のコーサラ国の属国という立場でした。コーサラ国のパセーナディ王は妃を血統正しい釈迦国の貴族の娘にしようと考え、釈迦国に打診します。しかし、釈迦国の長老は釈迦族は由緒正しい血統でありコーサラ国は大国ではあるが系図が正しくないの誇り高き釈迦族の貴族を嫁がせることはできないと考え、長老が下女との間に授かった容姿端麗ではあるが身分の低い娘をコーサラ国王の妃として送りました。やがてこの妃はヴィドゥーダ王子を授かります。王子が幼少のころに母の生家のある釈迦国に行った時「下女の子」と罵られ、自分の出生の事実を知り深い悲しみと憎しみを抱き、自分が王になったら釈迦国を滅ぼしてやると強く心に誓いました。

**や** がて王となり釈迦国を滅ぼす為自ら軍を率いてカピラ城に進むと城の入り口にある枯れ木の下で瞑想をしているお釈迦様に出会います。「仏陀よ何故たくさん生の茂る木があるのに、わざわざ炎天下にさらされるこの枯れ木の下で瞑想されるのか？」「王よ親族の陰は涼しいものです」と答え釈迦族への愛情を示されました。この言葉を交わし王は兵を引き返します。しかし、王の憎しみの炎は消えず再度出兵しお釈迦様は三度同じようにカピラ城近くの枯れ木の下で瞑想していました。（仏の顔も三度というのはこの話しが元ようです）四度目の出兵の時、お釈迦様は「釈迦族の悪業が川に毒を投じたように熟してしまい、もはや取り除くことができない」とおっしゃり、枯れ木の下にお釈迦様の姿はなく、釈迦国はコーサラ国により滅ぼされました。

**釈** 迦族の流した血は川のように流れていきました。長年の恨みを晴らしたヴィドゥーダバ王はその七日後に兵士達と共に川辺で嵐に遭い全滅し、王宮も雷に焼かれ、王を失ったコーサラ国はやがて他国に占領され滅亡しました。

**釈** 迦族は自分達の血統正しきことに奢り、差別と偏見の眼で他を見下した行為により、それが元で自国を破滅の道へと向かわせました。その犠牲者であったヴィドゥーダバ王は憎しみの心に支配され、恨みを晴らす事だけが自分の正義と目的になり、命の尊さを見失い沢山の人々を虐殺し大罪を作り、やがて自分と自国をも滅亡させてしまったのです。全ては因果応報の現れでした。因果の理は厳正にして犯し難し。この仏伝の中で幸せな人はいません。みな自分本位の考えで行動し、巡り巡って自らを滅ぼしていきます。

# 唱導寺だより

第7号  
2023.11月

汝早く信仰の寸心を改めて  
速やかに実成の一善に帰せよ



日蓮宗  
延宝山

唱導寺

日蓮大聖人鎌倉小町大路での辻説法跡

今の世界情勢を見ているとこの仏伝を見ているような思いになります。

「ま」は止みがたしただだ怒みなきによりてこそ怒みは遂に消ゆるべしこれ変わりなき真理なり」とお釈迦様は言われています。怒みからでる行動は新たな怒みをつくり、永遠に争いが止むことはない。ただ怒みを捨てることだけが自他を幸いにする道だと教えてくれています。いまこそこの仏陀の言葉を世界に届け、自らも実践しなくてはいけないと感じる令和五年の初冬です。

## 寺嫁のつぶやき...

我が家には今年僧侶となった長男と、一つ年下で大学四年生の長女がおります。この二人がまだ小学三年と二年生だった九月のある日、いつものように布団を並べて四人で寝ようとしていると、これまたいつものように住職と子供達が戯れている姿を横になりながら微笑ましく見ていました。



手術前に行った富士急ハイランドにて

その時、何気なく自分の胸の辺りに手を当てると、しこり？でも水疱かなと軽く考えて住職に言ったところ、珍しく自分も一緒に行くから早速明日病院へ行こうと言われ、翌日近くの病院へ。検査を進めていると、院長先生が少し顔を曇らせて「今日は一人で来たの？子供は？何才？まだ小さいね！」なにこの質問は？なにに？と思いつつながらカルテをのぞき込むと（癌）疑いの文字が。住職も先生に呼ばれて一緒に説明を聞いたものの私の頭は真っ白。えっ？まさか？嘘でしょ！院長先生「もつと詳しく検査をしないとつきりとは言えないけど、私の経験上癌だと思う。私の弟子で頑張っている女医が鎌倉にいるからその病院にいつてみないか。」と…この瞬間から私の闘病生活ははじまりました。続きは次号で。

## 唱導寺だより 第7号

発行◆令和5年11月15日

発行者◆日蓮宗延宝山 唱導寺

住職 菅野 海應

神奈川県横浜市港南区日野中央1の6の34

電話:045(842)2955

FAX:045(841)9600

www.shoudouji.org/





かんじょう  
唱導寺勸請の菩薩様・神様紹介 **その2**  
りゅう ず かん ぜ おん ぼ さつ  
**第二回は龍頭観世音菩薩**  
**をご紹介します**

山形県にある出羽三山の一つである月山にあったと伝えられている仏像です。原型を留めていないほど傷んでしまっていますが、それほど長い年月を過ごしてこられたのでしょう。

龍頭観音様のお姿には大きく分けて二通りあります。観音様が龍の頭に乗っているお姿と観音様の頭部上に龍が顔を出し観音様を守っているかのようなお姿です。

山形にある仏像彫刻原田様と当山の龍頭観音様は元々どのような形であったかを想像し、後者のお姿であったであろうとの結論にいたりました。そして、平成二十三年に住職が四回目の大荒行に挑むにあたり、お前立ちという形で新たに龍頭観世音菩薩像を作成し行堂内で開眼入魂し当山に安置をしました。

普段は光が入る位しか扉を開けていませんが、毎月十八日の観音様のご縁日の祈祷会ではお厨子の扉を大きく開けていますので、是非ご参拝ください。



## 唱導寺護持会員募集

唱導寺には「護持会」という、お寺を守る会があります。会費はお寺の修繕費や御会式での奉納金等に使われています。皆さまに気持ちよくご参拝いただけるお寺であるために、是非皆さんのご入会をお待ちしております。



**入会金1万円**  
**年会費5千円**

信仰の証し  
護持会員輪袈裟



これより唱導寺副住職として檀信徒の皆様のお役に立てる僧侶となるべく精進して参りますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願いいたします。

### ◆日蓮宗信行道場の1日◆

|                              |                      |
|------------------------------|----------------------|
| 3:30 起床                      | 12:00 昼食             |
| 4:00 水行                      | 13:00 午後の課業          |
| 4:30 読経                      | 15:45 夕の勤行           |
| 6:00 行脚にて御廟所<br>(日蓮大聖人の墓所)参拝 | 17:00 夕食             |
| 7:00 朝の勤行                    | 18:00 読経             |
| 8:00 朝食                      | 19:30 唱題行<br>(お題目修行) |
| 8:15 清掃                      | 20:00 入浴             |
| 9:00 訓育主任より講義                | 20:45 瞑想             |
| 10:00 午前の課業                  | 21:00 就寝             |



## 副住職 海睿上人 信行道場修了報告

日蓮宗僧侶となる為には得度をし、日蓮大聖人が出家をされた千葉県鴨川市にある日蓮宗大本山清澄寺にて度牒式を行い、その後日蓮宗総本山身延山久遠寺で行われる三十五日間のお籠り修行を修了しなくてはなりません。

唱導寺住職の長男である幸宏氏は本年四月十五日より五月十九日まで身延山でのお籠り修行を無事に修め正式に日蓮宗僧侶となり帰山し、名前も幸宏より海睿と改名しました。

### 海睿上人履歴

- 平成十二年八月八日誕生
- 幼名 幸宏
- 地元の日野幼稚園と吉原小学校に通園通学し、中学からは縁あって横浜隼人中学・高等学校へ進学し卒業。
- 平成二五年三月唱導寺にて得度式を行い、同年七月二八日に大本山清澄寺にて度牒交付。日蓮宗沙弥となる。
- 令和四年五月に僧道林修了。
- 令和五年三月立正大学心理学部卒業。同年五月一九日日蓮宗信行道場修了し正式に日蓮宗僧侶となる。



管長より修了証をいただきました

● 立正大学は日蓮宗僧侶の教育機関が源流となり作られた大学で現在も仏教学部があり、日蓮宗僧侶となる為の講義が行われています。海睿上人は心理学部に在籍しながら仏教の講義を受講し、日蓮宗僧侶となるための単位を取得しました。

中学高校とテニスをしており、高校の団体戦では選手として出場し県でベスト8まで行きました。大学でもテニスサークルに入り、現在も運動としてたまにテニスをしています。大学で心理学・臨床心理を学んだことで人を見かけで判断しないことや、偏見をなくす視点がもてたと感じています。また心理学を学んだお陰で自分の精神状態を冷静に分析できるようになり、信行道場での修行を全うすることができました。

これからはお釈迦様や日蓮大聖人の御教えと心理学を合わせ、少しでも皆様のお役に立てる僧侶となれるように精進してまいります。



唱導寺には日蓮大聖人が御入滅になられる約二年前の弘安三年九月八日に身延山中においてご染筆された大曼荼羅御本尊を奉安しております。この御本尊は宗祖御入滅の法会である報恩会式の時に一年に一度だけ開帳をしております。日蓮大聖人がご染筆された御本尊は百幅ほど現存しておりますが、一般寺院で奉安させていたでいることは大変貴重で有り難いことです。

この御本尊を年中お開帳することは叶いませぬが、何か他の形で当寺お参りの皆様にこの御本尊を拝していただきたいと兼ねてより考えておりました。そこで令和三年は宗祖日蓮大聖人御降誕八百年、そして唱導寺が寺号公称をして五十年という節目の年でしたので、この機に唱導寺で奉安させていただいている宗祖御直筆御本尊を板曼荼羅として作成し勸請しようと発願

いたしました。

七百五十年ほど前の御本尊ですので、地の紙は黒くなっており、字が切れてしまっている部分などもあり、細かく写真を撮って本来の姿を模索していきました。そしてどなたに作成していただこうかとお世話になっている仏具屋さんとお話をしていると、ダメ元で愛知県に工房がある江場仏像彫刻所の大仏師江場琳観氏に相談をしてみようということになりました。コロナ禍が幸いし、今ならば琳観氏が監修しながらお弟子さんを一人選んで作成することが可能だにご快諾をいただきました。発願当初は令和三年の宗祖報恩会式に合わせて開眼法要を執り行いたいと考えておりましたが、予想以上に緻密な作業になり本年三月によりやく完成し納めていただきました。

その後、暦を見て八月四日に唱導寺有縁のお上人様方にご出仕をいただき一日かけ沢山のお経を誦読していただき開眼法要を執り行い、檀信徒の皆様には十月十五日の日蓮大聖人報恩会式の折にお披露目させていただきました。現在

では本堂正面のお厨子の中に奉安し唱導寺常住御本尊となっております。

今迄いくつかの板曼荼羅御本尊を拝してきましたが、当山の板曼荼羅御本尊は一番素晴らし出来であるといふ出来であると自負しております。



御本尊開眼法要



お会式でのお披露目

